

【レポート】 市立大学設置について

第41回地方自治研究全国集会
(ふくい自治研)

概要：2024年度、北上市は2030年度から街中に市立工科大学を開校する基本構想を公表しました。市立大学の設置については、少子化が進む中で学生は集まるのか、市の費用負担の割合はどうなるのかなど、市民から不安や反対の声も多く、市議会でも意見が割れている現状です。本レポートでは、工業系人材の育成や若年層の流出予防、街中の活性化を目的に進められている市立大学設置の現状について報告します。

市立大学設置に対する市の現状について —必要？ 不要？ 市民を二分する大学構想—

岩手県本部／北上市職員労働組合・書記長 菊池 洋

1. 市立大学設置基本構想の現状について

北上市は岩手県南部に位置する人口9万2千人の市で、県下有数の農業産出額、製造品出荷額を有しており、特に工業では2026年度からキオクシア北上工場が最先端メモリーを製造し出荷したことで注目されています。

そんな北上市は、2021年度から北上市近未来政策研究所（自治体内シンクタンク）において、大学設置に関する調査研究を行ってきました。2022年度、2023年度には企業や高校生、その保護者を対象としたアンケート調査を実施した結果、学生数の確保が十分可能であること、企業や高校生から大学設置を望む声が多いとして、基本構想の段階へ進むこととしましたが、2024年11月頃に実施した市民アンケートのなかで市立大学の必要性を質問したところ、市民の意見はおおむね拮抗していることがわかりました。

↓北上市議会広報委員会で開催した『北上市立大学設置の検討に関する市民アンケート調査』結果報告書抜粋
質問『北上市への大学設置は必要であると思いますか。』

回答	人数（人）	割合
絶対に必要であると思う	43人	11.7%
どちらかといえば必要であると思う	105人	28.5%
あまり必要はないと思う	68人	18.5%
必要ないと思う	108人	29.3%
わからない	32人	8.7%
その他、無回答	12人	3.3%

【※必要派 148人 40.2%、不要派 176人 47.8%、不明等 44人 12%】

市民の意見が二分しているなか、2025年3月に、名称を北上市立工科大学（仮称）として、工学部先端工学科のうち機械工学、電気電子工学、情報工学、材料化の4コースから選択でき、1学年120人、定員480人の規模の大学を街中に約135億円（当初約117億円）かけて設置するという基本構想が公表されました。

公表された基本構想を読み取り、メリットデメリットを把握することは素人目では困難なことから、北上市自治研推進部の活動として2025年5月21日に大学設置に詳しい長野県立大学教授の田村秀さんを講師に招いて地方自治研究集会を開催しました。会場には市民を含めて70人ほどが集まりました。田村教授は市の基本構想について、「オーソドックスな内容で無難にまとめている。理系のニーズはますます高まっているため、大学過疎の岩手県で進める意義は理解できる」と評価しました。また、「新幹線が通っている北上市の立地条件は悪くなく、周辺から一定程度学生が集まるのではないかなどと推測したうえで、設置に関しては「北上市だけで大学設置の是非を考えてはいけな」と青森県、秋田県、岩手県の北東北3県を含めた広うくくりで考える必要性を示しました。現状、北上市は単独で大学設置を検討していますが、大学設置の波及効果や影響などを考えると近隣自治体や県との協力が不可欠であること。また、今後の進め方においては「経済界や市民の理解が鍵となる」と述べており、各方面への働きかけとあわせて市民の理解を得ることの重要性を改めて確認することが出来ました。

北上市立工科大学（仮称）は市議会においても、大きな議論になっています。

2024年6月議会では、大学設置の基本構想を作成する委託費用747万6千円が補正予算がとして出されました。市民の理解度や大学の理念などの疑義がありましたが、基本構想が策定されてからでない具体的な議論ができないことから、この補正案は全会一致で可決されました。

2025年6月議会では、進学希望者の受験動向に関する調査の委託業務費用182万円の補正予算が議案として出されましたが、2026年は大学進学者のピークを迎える時期であり、この時期の動向調査が参考資料となるか疑問が残ること、また以前実施した高校生アンケートの成果で検証は十分であることから、関係予算を削除する修正案が提出されました。修正案は賛成11、反対14で否決され、原案のまま可決となりました。

その後、2025年10月臨時議会では、基本構想に基づき大学設置認可申請に必要な大学の具体的内容を定める基本計画の作成に係る883万円の補正予算が提案され、4時間を超える質疑の末、賛成12、反対13の1票差で否決になりました。

北上市は補正予算が否決になった原因について、北上市立工科大学（仮称）を「北上市都市拠点形成整備計画」の地域を指定したことで再開発事業のための大学設置ととられたためとしており、今回否決されたことで再開発事業として大学を整備することは困難になったことから、基本構想、スケジュール、立地場所を再検討し、改めて議会に提案することとしています。

2. 市立大学の設置に関して

北上市は、北上市立工科大学（仮称）の設置が未来の北上市のため必要であり、10月臨時議会で補正予算が否決となった理由を分析し、スケジュール等も見直しをかけながら大学設置に向けて理解を得ていきたいとしています。

北上市は、市民フォーラムを開催し、「市立大学の設置に適した場所は？」をテーマに市民が意見を交わすワークショップを開催するなど、再度、市議会に提案するための市民理解を深める取り組みを進めています。

一方で市民からの反対の意見も多く、市立大学設置に反対する署名運動も広がっています。このように市民の意見が二分してしまっている現状は北上市が拙速に市立大学の構想を進めてしまったことが一因のように感じました。

どのような教育理念で、どのような教育者を招いて、どのような人材を教育、育成していくのか、箱物の設置の話し合いが先行しており、市が目指す具体的なヴィジョンが見えてこないため、市民も良くわからないまま、アンケートの「無いよりはあった方がいい」、「よくわからないから必要ない」などの回答に票が集まっているように感じます。

焦って物事を進めるより、まずは市民目線に立ち、市民の理解を得るためには何が必要かを考える必要があると思いました。